



左／宮大工の仕事に欠かせないノミ。大小さまざまな種類を使い分け、木材を加工していく。 右／始業前や仕事の合間に道具の手入れを行う。上手く研げるようになるまでに相当の鍛錬が必要という。

宮大工の技術と魂を継承していく。

建 築系の専門学校を卒業後、京都市内の工務店で4年半修行を積んだ後、今年9月にUターンしました。現在は、父が営む有限会社玉田工務店（大宮町）で宮大工として働いています。

主に社寺建築や祭り屋台などの修繕を手掛ける宮大工は、一人前になるまでに最低でも10年かかると言われています。というのも、最近の家屋と違い、伝統的な木造建築にはネジや金物を使わず、木と木をつなぎ合わせるしていく「木組み」が用いられているほか、屋根にもさまざま



有限会社玉田工務店・宮大工

玉田 裕城 さん (25歳・大宮町)

な造りがあるからです。加えて、詳細な図面も残っていないことが多く、修復作業には専門的な知識と高度な技術、長年の経験が必要とされます。

使う木材も鉋かんなやノミを使って手作業で加工していくため、修繕を終えるまでに3年ほど要することもあります。完成したときの優美な姿を見ると何とも言えない気持ちになりますね。

この仕事をしているうちに日本古来の木造建築が好きになり、休日には神社仏閣を巡るのが趣味になりました。まだまだ未熟ですが、丹後の貴重な文化財を守るとともに、宮大工の技術と魂を親父から受け継ぎ、次代へ継承していきたいです。



丹後地域では数少ない宮大工の3人。左から平井大嗣さん、棟梁の玉田翔嗣さん、玉田裕城さん

あなたの帰りを待っています

着物姿で舞い、丹後ちりめんの魅力を発信

【丹後小町踊り子隊 隊員 竹中沙織さん】

「丹後ちりめんの魅力を伝えたい」「丹後を盛り上げたい」。そんな思いを抱く地元的女性たちが集まり、平成24年に産声を上げた丹後小町踊り子隊。毎年春の京丹後ちりめん祭をはじめ、式典や地域の行事、市内外のイベントで踊りを披露しています。メンバーは10代～30代の9人。いつかは、丹後ちりめんの広告塔といえば、丹後小町踊り子隊！と言っただけのよう、隊員同士の絆を深めながら頑張っていきたいと思っています。

現在、丹後小町踊り子隊では隊員を募集中です。踊り初心者の方でも大歓迎！私たちと一緒に、京丹後を元気にしていきましょう。お問い合わせは京丹後市商工会（☎62-0342）まで。



京丹後ちりめん祭のステージで踊りを披露する丹後小町踊り子隊。華やかな舞で丹後ちりめんの魅力を発信する。